
H29 年度女性医師・研究者支援センター調査 調査報告

調査の概要

1. 調査要綱

(1) 調査の目的

職員の就労状況、育児・介護の状況、仕事への満足度等を把握し対策立案に活かすことを目的とする。

(2) 調査の対象

調査の対象は、帝京大学板橋キャンパス、八王子キャンパス、宇都宮キャンパス、福岡キャンパス、霞ヶ関キャンパスに所属する教員および医学部附属病院、医学部附属溝口病院、ちば総合医療センターの附属 3 病院に所属する職員である。

(3) 調査期間と方法

調査期間は 1 か月間（平成 29 年 2 月）とし、WEB フォームへより回答いただいた。

(4) 調査に関する秘密の保持

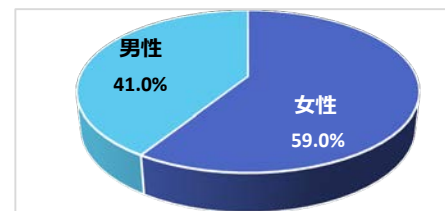
本調査は、男女共同参画推進事業の一環として実施された。プライバシーの保護を考慮し、無記名での回答とした。解析は個人単位では行わないこと、回答の有無や回答内容によって帝京大学との雇用に何ら影響のないことを事前に回答者に告知した上で、守秘義務を遵守し調査を行った。

2. 調査結果

1. 回答者属性について（全体）(n=690)

(1) 回答者の性別(n=690)

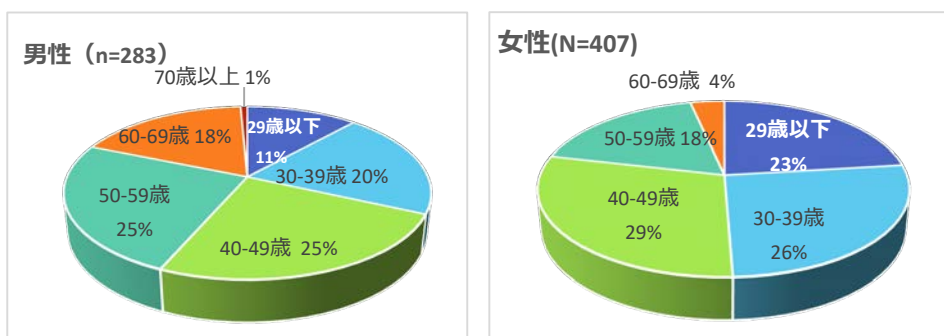
回答数 713 のうち、調査に協力すると回答した回答者数は 690 名。これを性別にみると、女性 59.0%、男性 41.0%となった。



回答者の性別比率

(2) 回答者の年齢層(n=690)

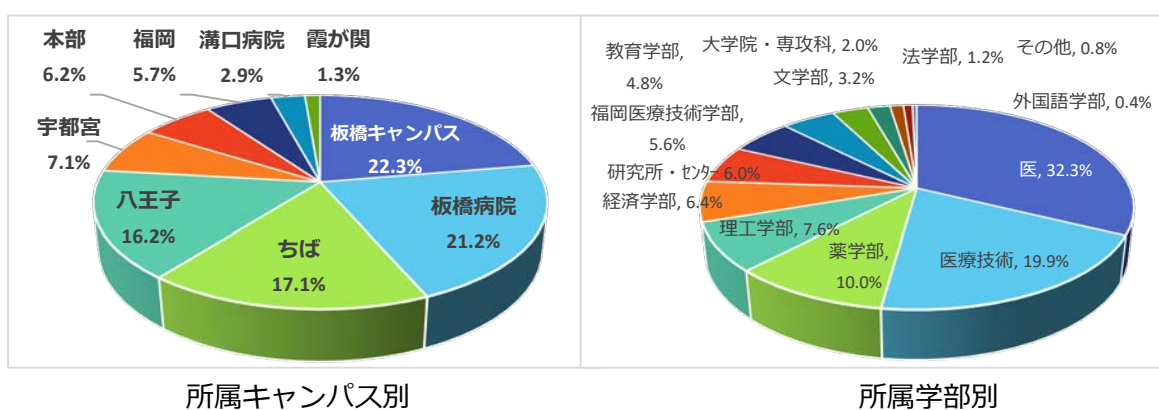
回答者の年齢分布を性別で見ると女性 20 代、30 代が構成比率の約半数（49%）を占めるのに対し、男性は 20 代、30 代が約 31%しかない一方、40 代、50 代がそれぞれ 25%とボリュームゾーンを形成している。



回答者年齢分布（男女別）

(3) 回答者の所属について

回答者の所属キャンパス・病院は以下の通り。多いものから板橋キャンパス、板橋病院、ちば総合医療センター、八王子キャンパスの順に続いた。また、回答した教員の所属学部については、多いものから医学部、医療技術学部、薬学部、理工学部となった。

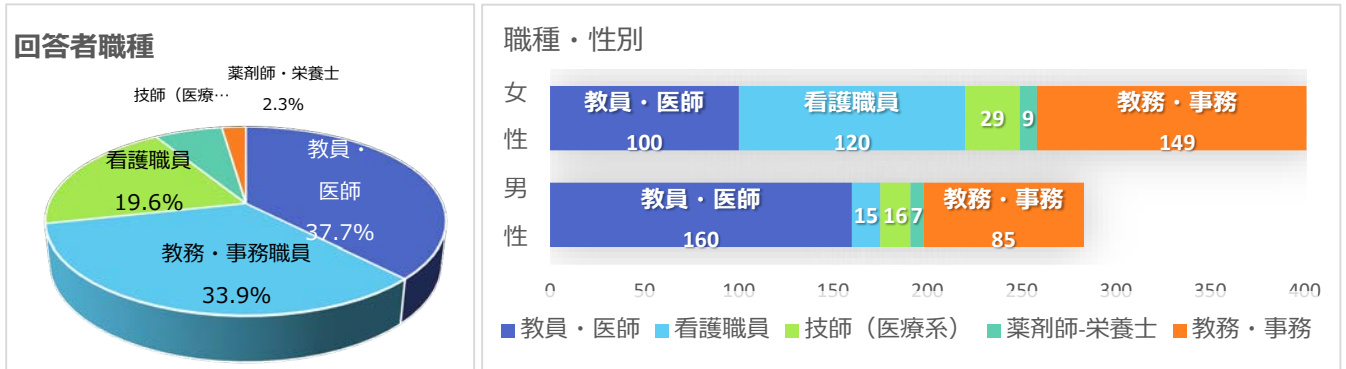


所属キャンパス別

所属学部別

(4) 回答者の職種について

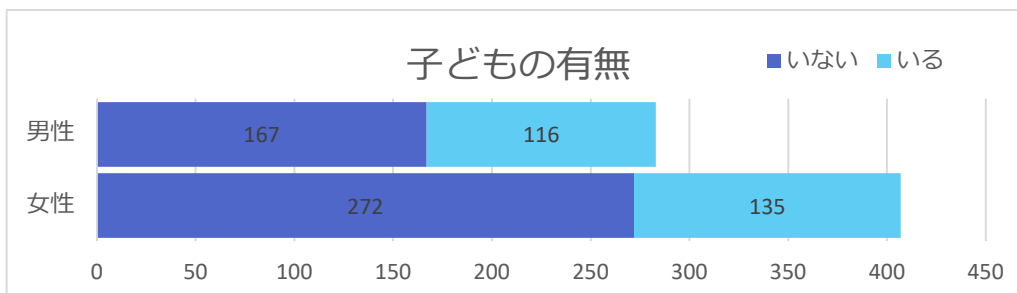
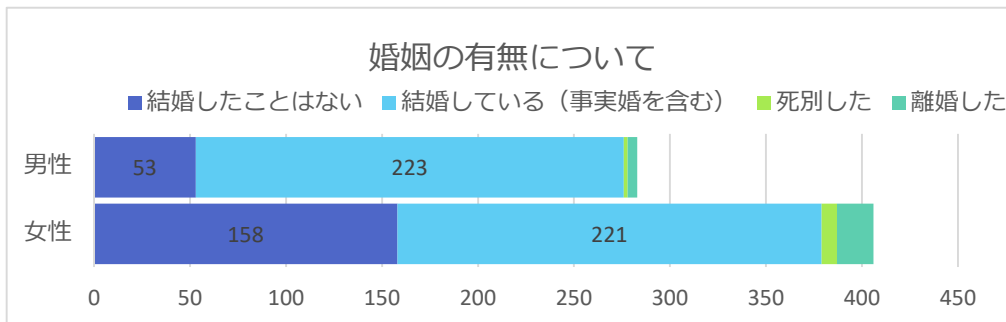
教員・医師が最も多く 37.7%、次いで事務職員 33.9%看護職員 19.6%の順に続いた。



2. 回答者における既婚率・子どもの有無 (全体) (n=690)

(1) 既婚率・18歳以下の子どもの有無について

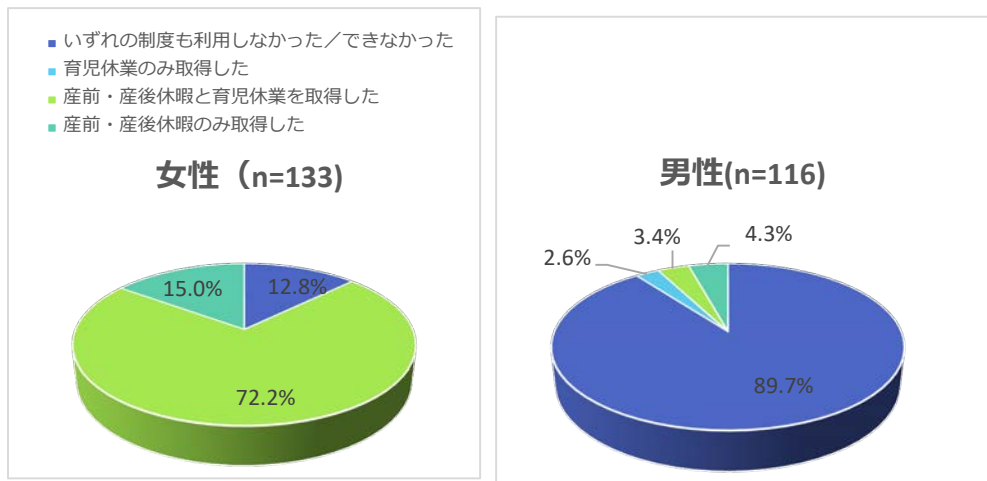
回答者における既婚率・18歳以下の子どもの有無については下記の通り。



3. 子育て中の回答者の状況について

(1) 産休・育休の取得状況について

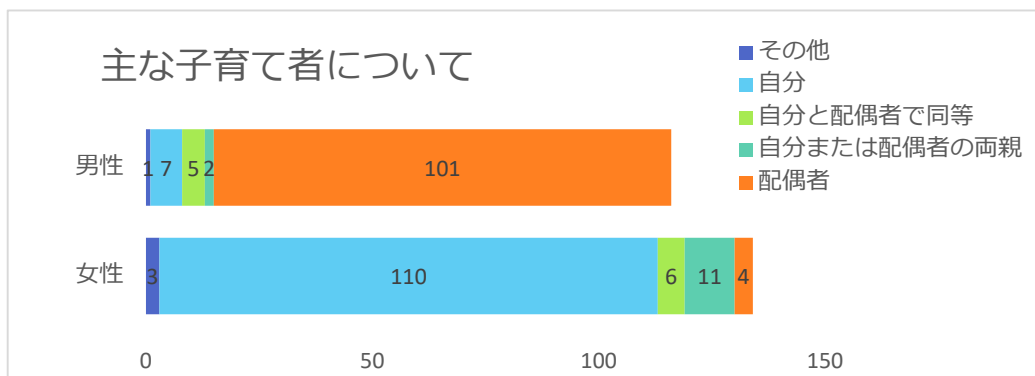
子育て中の回答者のうち、女性に関しては産前・産後休暇と育児休業を取得した回答者が 72.2%と最も多かった。男性に関しては、いずれの制度も利用しなかった／できなかったと回答したのが 89.7%となっている。



産休・育休の取得状況（全体）

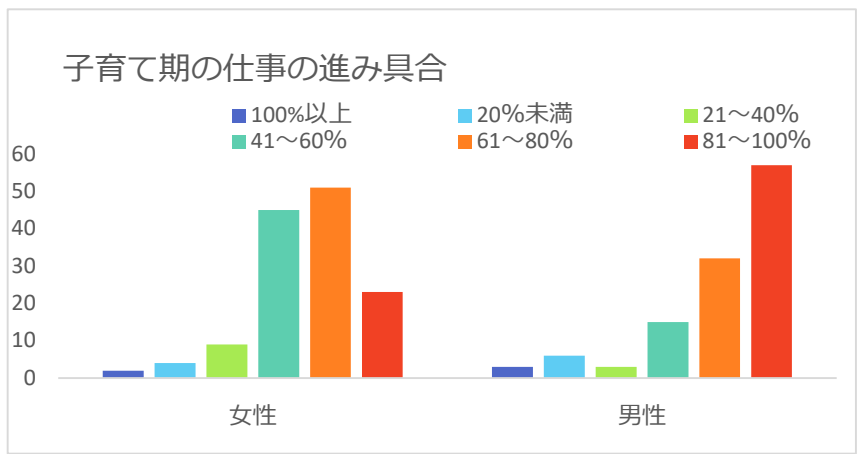
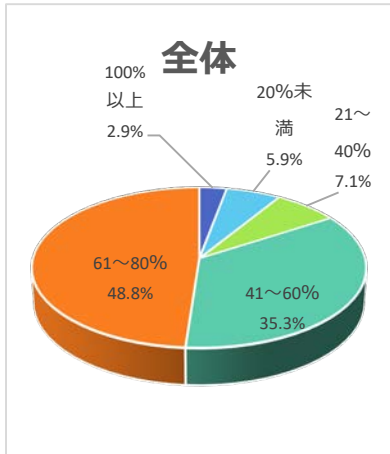
（2）主な子育て者について

主な子育て者についての質問については、女性は「自分」、男性は「配偶者」と回答した者が多く、女性（母親）が主な子育てを担っていることが伺える結果となった。

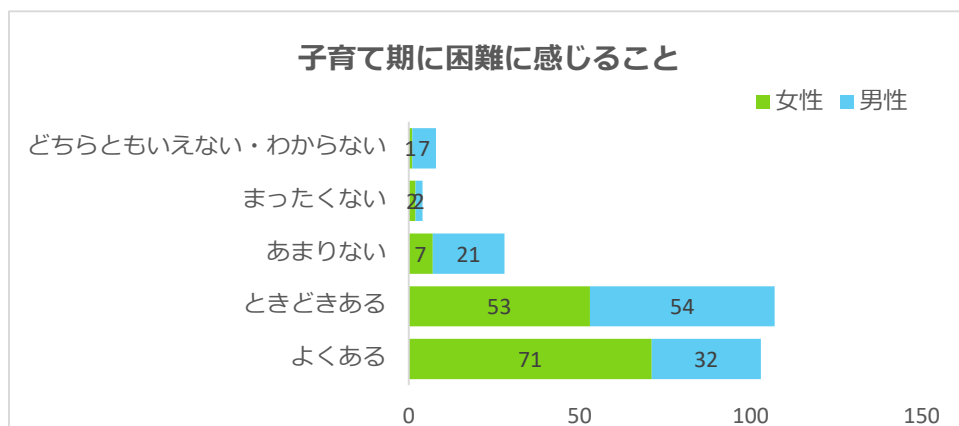


（3）子育て期における仕事の両立について

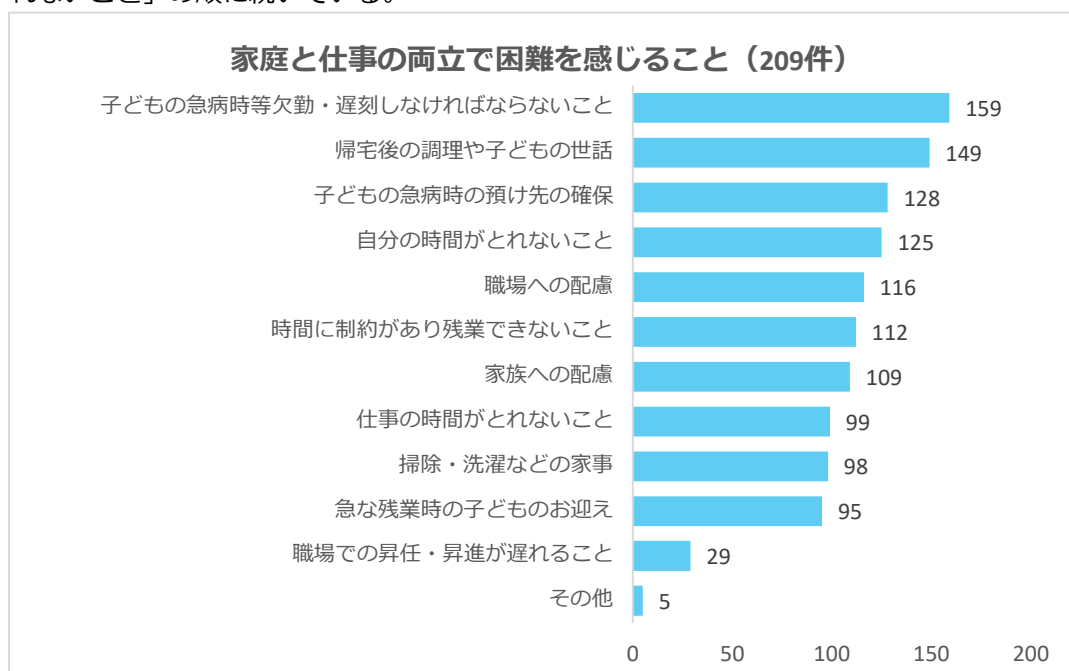
十分に仕事ができる状況を 100%とした場合、子育て期のあなたの仕事の進み具合はどのくらいですか。の問について、全体では、61～80%とする回答が多かったが、性別に回答を見ると、男性 81～100%が多いのに対し、女性は 61～80%との回答が多く、女性のほうが子育てとの両立が仕事の進み具合に影響を及ぼしていることが伺える結果となった。



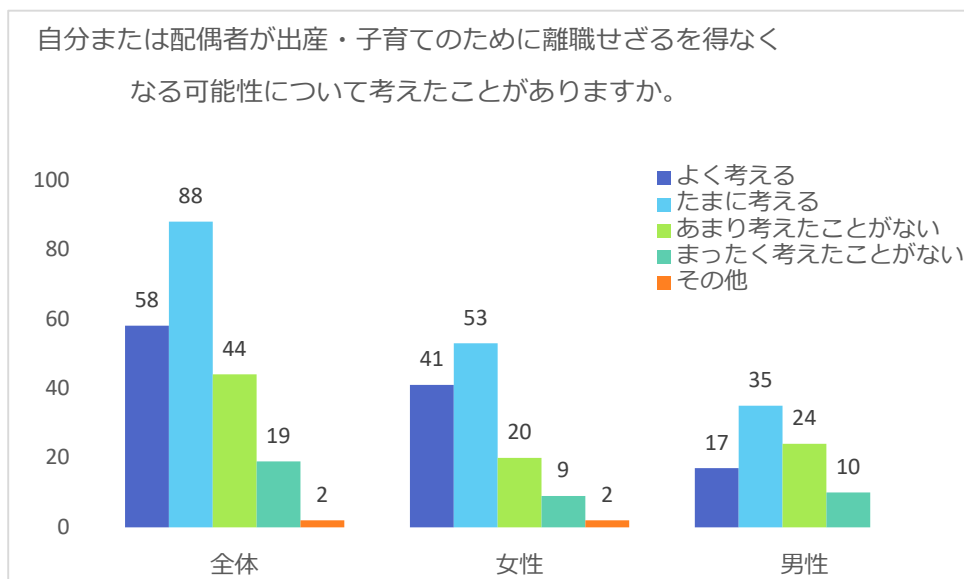
また、子育て期に仕事との両立を困難に感じるかどうかについての質問に対し、全体でみると「ときどきある」と回答した者が最も多いが、性別でみると、女性は「よくある」回答者が71名と最も多くなっている。



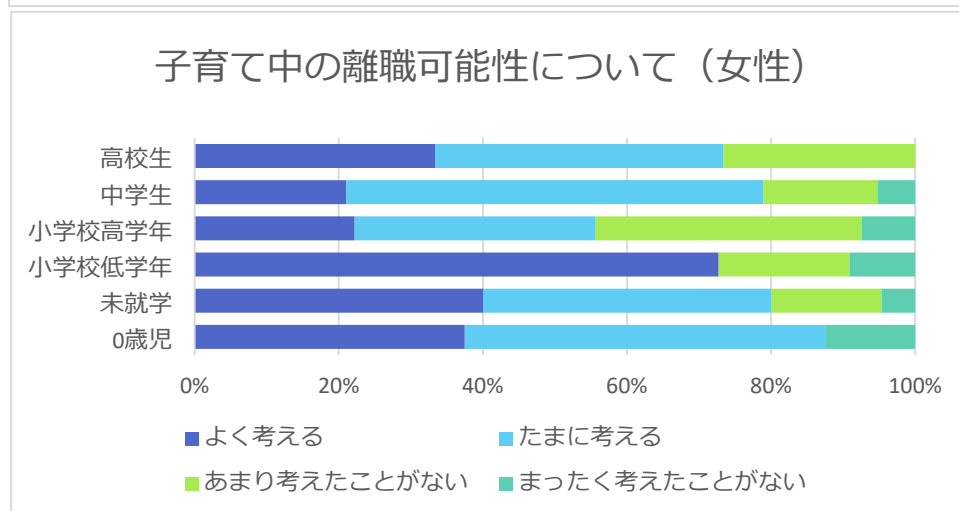
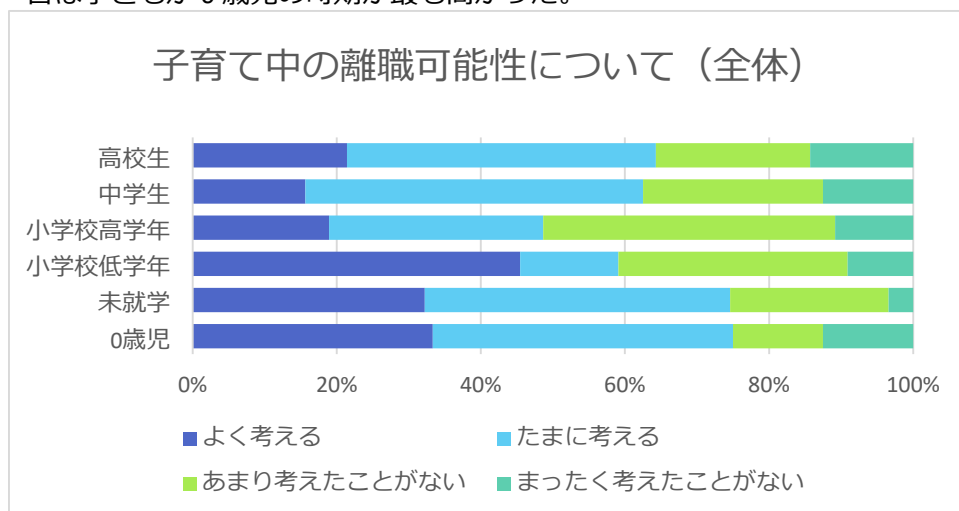
家庭と仕事の両立で困難を感じることは、「子どもの急病時に欠勤・遅刻しなければならないこと」が最も多く、次いで「帰宅後の調理や子どもの世話」、「子どもの急病時の預け先の確保」、「自分の時間が取れないこと」の順に続いている。



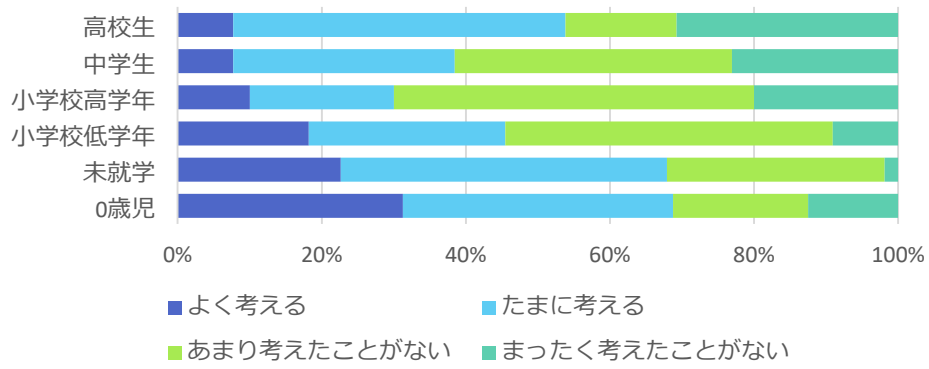
自分または配偶者が出産・子育てのために離職せざるを得なくなる可能性について考えたことがあるか、の問いに関しては、「よく考える・たまに考える」との回答が全体の69.2%となっており、子育て中の回答者の多くが、仕事と家庭の両立に困難を感じていることが伺える。



なお、子どもの年齢別にみると、自分または配偶者が出産・子育てのために離職せざるを得なくなる可能性について「よくある」と回答したのは、女性の場合は子どもが小学校低学年の時期、男性の場合は子どもが0歳児の時期が最も高かった。

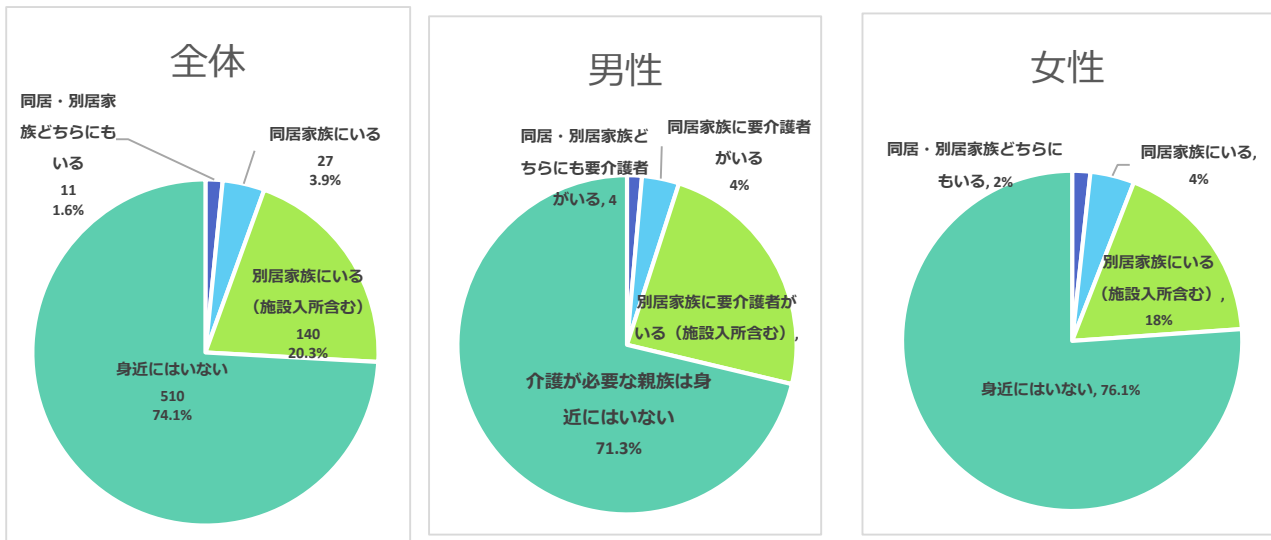


子育て中の離職可能性について（男性）



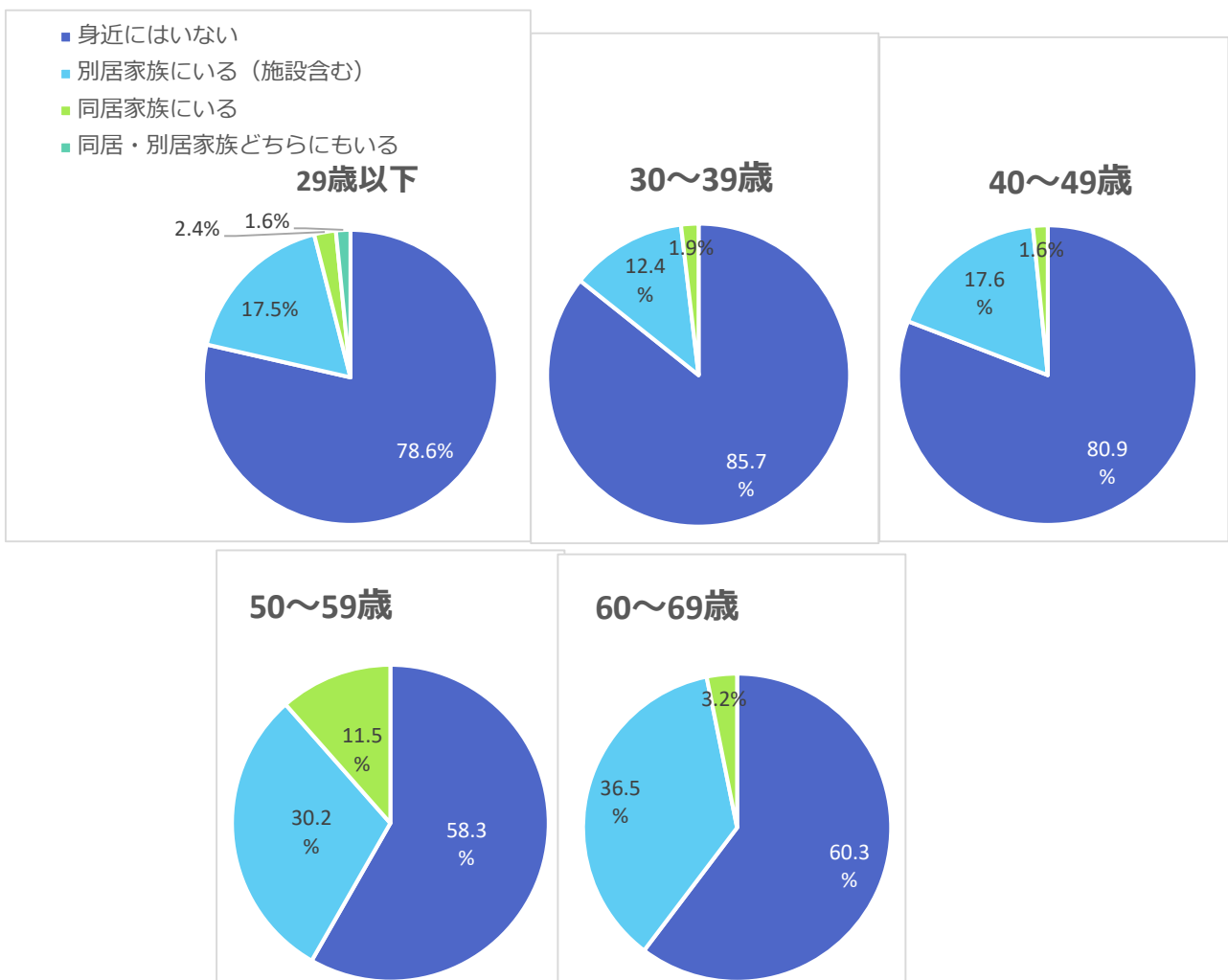
4. 介護状況について（全体）

介護についての質問では、回答者の26%に介護が必要な家族がいることが分かった。



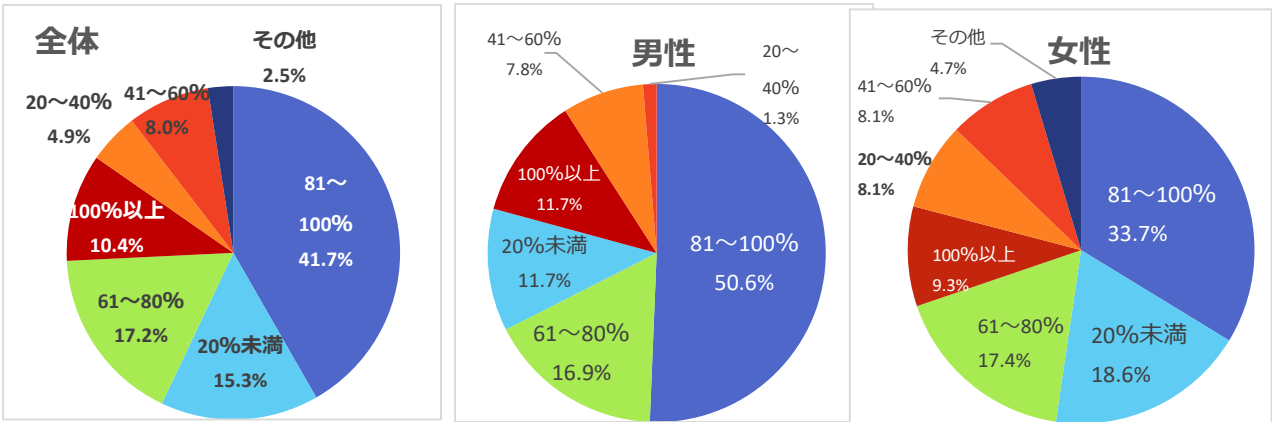
（1）年齢層別

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ、介護が必要な家族がいると回答した者の比率が高くなっており、40代、50代の回答者の4割に介護が必要な家族がいることが明らかになった。



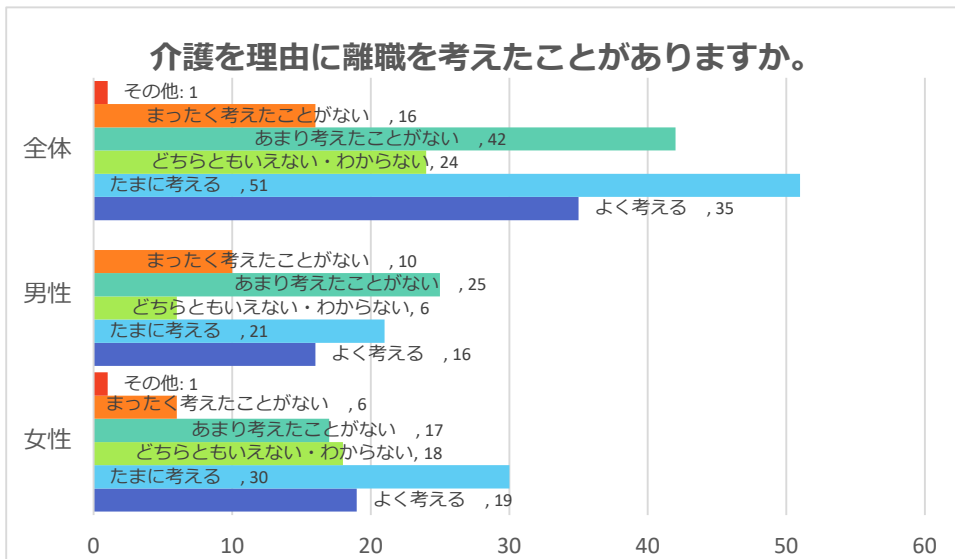
(3) 介護期における仕事の両立について（全体）

介護期の仕事の進み具合についての質問には、81～100%の回答が多かった。ただし、20%未満とする者もいるなど、ばらつきがみられる。



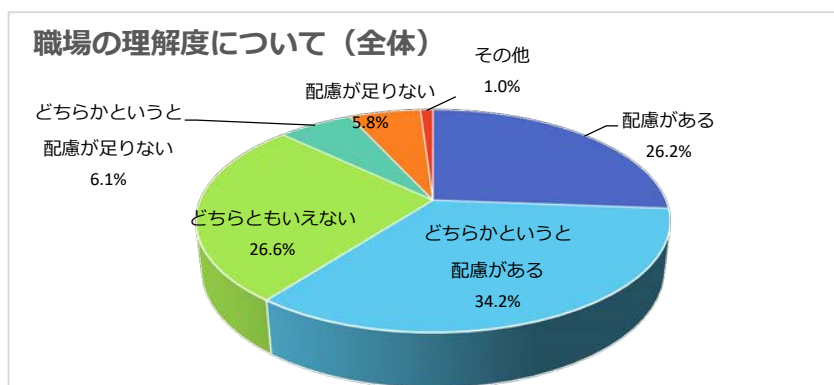
(3) 離職について

なお、介護を理由に離職を考えたことがあるかについての質問に対しては、「ときどきある」「あまりない」「よくある」の回答順となった。ただし、女性は「ときどきある」「よくある」、男性は「あまりない」「ときどきある」と、若干の意識の違いがみられた。



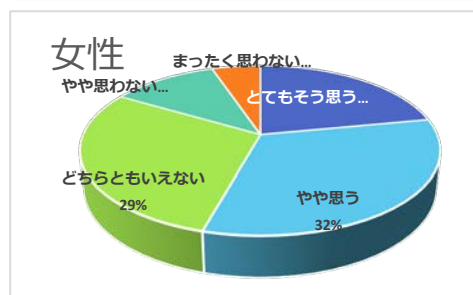
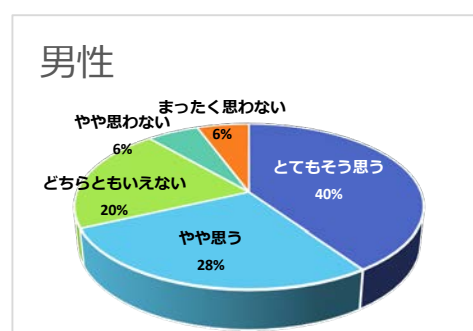
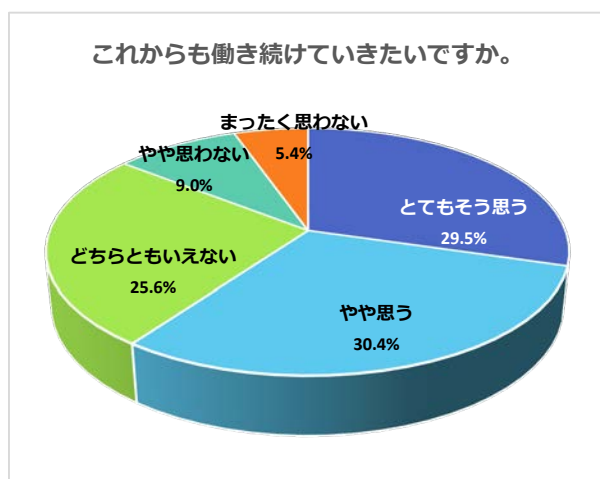
5. 職場環境・支援について

職場の理解についての質問に対しては「配慮がある」「どちらかという配慮がある」が6割を占めた。



（2）就労意欲について

これからも本学で働き続けていきたいかの問いに対しては、「とてもそう思う」「ややそう思う」が全体の60%を占める結果となった。性別で見ると、男性は「とてもそう思う」が40%、「やや思う」28%、「どちらともいえない」20%の順であるのに対し、女子は「やや思う」32%、「どちらともいえない」29%、「とてもそう思う」22%と若干の差が見られた。



(3) 長く働き続けていくために必要と思うもの

男女ともに長く働き続けていくために必要と思うもの、についての質問に対しては、「周囲（上司・同僚・部下）の理解」が最も多く、次いで「柔軟な勤務体制の構築」「職場でのコミュニケーション」と続いた。

